

令和元年度第2回狭山市社会教育委員会会議 会議録

開催日時	令和元年10月30日（水） 14時00分から16時00分まで			
開催場所	狭山市立博物館 会議室			
出席者	今福委員	江頭委員	小川委員	齊藤委員
	黒川委員	近藤委員	高橋委員	小熊委員
	吉田委員	江上委員	八瀬邊委員	西村委員
	野村委員	横山委員	高久委員	
欠席者	千装委員	井堀委員	新井委員	角田委員
	小林委員			
事務局	滝嶋生涯学習部長	田中社会教育課長		
	社会教育課社会教育・青少年担当	三浦	小暮	
その他	小出市民部長			
	市民文化課地域交流施設推進担当	新井担当課長		
傍聴者	0名			

1 開 会

2 あいさつ

- ・西村議長
- ・滝嶋生涯学習部長

3 議 題

(1) 協議事項

- ・第6次狭山市生涯学習基本計画策定に伴うアンケート調査について
《第6次狭山市生涯学習基本計画 策定方針について
：事務局より内容説明》

《意見聴取・質疑》

委員 ・第5次狭山市生涯基本計画の達成状況の評価内容は、事前に社会教育委員も情報共有できるのか。

事務局 ・毎年、前年度の事業評価は第1回の社会教育委員会会議で報告している。

次回は3月に社会教育委員会会議を予定しているが、その席上で生涯学習基本計画を策定するにあたっての、この3年間の事務

事業の状況は報告できると考えている。

- 委員 ・ 第4次狭山市総合計画後期基本計画は、SDG'sやSociety5.0の視点で見直し、策定していくという方向性が示されている。生涯学習基本計画も同じ方向性だと思うが、触れられていないのはなぜか。
- 事務局 ・ 生涯学習基本計画の上位計画として、教育振興基本計画があり、これも今回、同時に改定するのだが、こちらは、社会教育・社会体育・学校教育など、教育全てを網羅した計画で、こちらの策定方針の中でSDG'sやSociety5.0といった概念を踏まえていくとされており、生涯学習基本計画はその配下にある計画なので同じように策定していくことになる。
- 委員 ・ 『4計画策定の体制』の『(2)市民参画』の①の中で、市民検討委員会は設置せず、とあるが前は設置しているのか、また、②の市民意識調査の中で、生涯学習関連団体より聴取するとあるが、どの様な形式で行われるのか。関連団体とは、どの様な団体を考えているのか。
- 事務局 ・ ①については、前回は社会教育委員会議で検討していただいた。
・ ②については、直接団体の方々と会って意見聴取する予定である。対象団体については、SSVC・生涯学習を進める市民の会・PTA 連合会等を予定している。

《狭山市生涯学習基本計画策定のためのアンケート調査

狭山市スポーツ推進計画策定のためのアンケート調査（一般市民）

について：事務局より内容説明》

《意見聴取・質疑》

- 委員 ・ アンケート項目については、一般市民と団体と同じなのか。
- 事務局 ・ ほぼ同じである。
- 委員 ・ 前回計画からの継続性も必要だが、5年という時間経過の中で、新たに付け加えるべきもの、削除してしまっているものについて検討を願いたい。
- 委員 ・ アンケートの対象者は何人程度を考えているのか。また、前回の対象者数と回収率は。
- 事務局 ・ 前回のアンケート調査は、平成27年3月から4月にかけて実施さて、16歳以上の一般市民、1,882人を実無作為抽出して行った。

回答者数は 580 人、回答率は 30.8%であった。具体的な数字は、手元の「第 5 次生涯学習基本計画」の P. 15 に載っている。

補足説明だが、アンケート調査では 20 数項目の設問があるが、実際に使っているのは P. 15 から P. 21 にかけての 7 項目である。

- 委員
事務局
- ・今回も対象者数は同程度（約 2,000 人）を予定しているのか。
 - ・同程度の 2,000 人を予定している。しかし、今回、教育振興計画・スポーツ推進計画・当計画の 3 計画を見直しするので、アンケート調査についても、それぞれの計画と整合性を図りながら取り組んでいきたいと考えており、アンケート項目についても絞る必要があると考えている。
- 委員
- ・アンケート内容については、継続性もあるので変えないほうが良いと思う。
 - ・設問内容について、関係団体の設問中、『4. ボランティア活動について』の間 15 で、いきなり、ボランティア活動に参加したことはありますか、との問いになっているが、ボランティア活動も幅が広いので、ボランティア活動についての説明があった方が良いのではないか。
- 委員
- ・回答者自身について聞く設問で、年齢の部分について、75 歳以上が一括りになっているが、高齢者も増えているのでもう少し分けた方が良いのではないか。
- 委員
- ・ボランティア活動に関しては、自治会や P T A など具体的に選択肢を挙げたうえで、「その他」で書き込めるように欄を設けてはどうか。
 - ・回答者がボランティアの一員である、という自覚を持った方が、回答にも積極的になると思う。
- 委員
事務局
- ・無作為抽出だと外国人が対象になる可能性があると思う。どこまで対応できるかは難しいと思うが、配慮は必要ではないか。
 - ・アンケート調査項目の検討は 11 月から 1 月にかけて行う。先ほど出た、3 計画を同時進行で進めるので、いただいた意見は会議録に残すと共に、生かしていきたい。
- 委員
- ・回答者自身について聞く設問で、『オ』の職業を聞く項目があるが、リタイヤした方は全員が無職になってしまう。今後、65 歳以上の層が増えている中で、その部分が分類でき

ず、一括りになっている点については、どう対応していくか課題である。この年齢層の中でも、どの様な活動を行っているか聞くのもいいのではないか。

- 委員 ・この件については、これから必要になってくる問題であると思う。
- 委員 ・無職、年配の方が、どの様な生き方をしているか、暮らし方をしているかを把握することが必要になってくると思う。
- 委員 ・生涯学習に関しての意欲や興味の変化も読み取れるのではないか。
- 委員 ・市民大学に通っているという項目も設けると良いのでは、学習意欲の高さが読み取れるのではないか。
- 委員 ・問7の選択肢を整理すべきではないか。また、『5. 学習を特に必要と考えていない』ということであれば、なぜ、学ぶ必要がないのか理由を聞く必要があるのではないか。
- 委員 ・『1. 生涯学習の実施状況について』の問3で、回答欄に図書館・博物館・美術館はあるが、公民館・地区センターが無い。「3. 同好者のサークルや趣味の会への参加」や「6. 自治体などが開催する講座・教室の受講」に含めるという考えもあるが、項目として公民館・地区センターの選択肢を設けてもよいのではないか。
- 委員 ・同じく問8「～、今後どう思いますか。」とあるが、「～、今後どうしたいとどう思いますか。」と入れた方が適切ではないか。
- 委員 ・『2. 学校の支援について』の問9で、「3. 児童生徒の安全確保で活かしたい」とあるが、例えば「登下校時に」などもっと具体的な表記にした方が判り易いのではないか。
- 委員 ・『4. 生涯学習に関する相談等について』の問15の選択肢について、今、市民大学で学んでいる方は沢山いるので、「8. NPO等」の項目はあるが、具体的に「市民大学」の項目を入れた方が適切ではないか。また、社会福祉協議会でも色々なボランティアの講座をおこなっているので、「社会福祉協議会」の項目も設けても良いのではないか。
- 委員 ・『6. 生涯学習全般について』の問22の選択肢で、「10. 高齢者や障害者が参加しやすいように配慮する」とあるが、これは事務的な面か、設備的な面か、判り難い。
- 委員 ・設問の中で、当てはまる回答を3つまで、という指示が多

いが、3つとする根拠はあるのか。全体的に回答数を制限せず、複数回答可にした方が、回答し易く、集計時も動向が判るのではないかと思う。しかし、前回との整合性もあるので、検討してもらいたい。

- ・『1. 生涯学習の実施状況について』の問4の選択肢が細かすぎるのではないか。「1. ほとんど毎日」と「2. 週に3～5日」はほぼ同じであり、ここまで細かく聞いて、それを政策に活かせるのか。積極的か、そうでないか、を知りたいのであれば、別の聞き方のほうが、全体の傾向が判るのではないか。
- ・問8と問21は、設問として本当に必要なのか。設問数を減らすことを考えるのであれば、問22に集約し、複数回答を可にすることで、傾向は把握できると思う。

・これだけWebが浸透している、今、年代によってではあるが、今回のように、対象が16歳からということであれば、アンケートの方法として、紙媒体で郵送返却という調査方法は時代にそぐわないのではないか。

今回変更することは難しいであろうが、ゆくゆくはWeb調査を取り入れることも検討していく必要があると思う。郵送調査で回収率が30%というのは、まずまずの数字だと思うが、狭山市の人口を考えた時に、500人の意見で意識調査と言えるのか、と問われると厳しいと思う。Web調査であれば、対象母数も増え、集計も楽になり、回収率も増えるのではないか。

- 事務局
- ・調査方法も大きな課題であるので、検討していきたい。
- 委員
- ・まだ、100%ペーパーレスは難しいと思う。
- 委員
- ・費用の面からも回収率をいかに上げるかを考える必要はあると思う。
- 委員
- ・設問の内容ではないが、回答する立場になると、『1. 生涯学習の実施状況について』の問1「1. 行った」を答えた人は、次の問2～6を答えることになるが、「2. 行っていない」と答えた人は問7へ飛ぶことになるので、「1. 行った」の注として、「1を選んだ方は、次の問2～6をお答えください」と入れれば、「2. 行っていない」を選んだ人は、問2～6を読まなくても済むのではないか。
- 委員
- ・『ご協力をお願い』の所で、4行目の部分「また、スポーツを親しむことのできる環境づくりを目指して、～」の「環境づく

り」の次に「そして、それらを通しての街づくり」と入れ、
「また、スポーツを親しむことのできる環境づくり、そして、
それらを通しての街づくりを目指して、～」として欲しい。

- 事務局
- ・社会教育の分野は「人づくり」があり、それが「街づくり」に繋がっていくというのが当然の理念なので、「街づくり」のキーワードを入れたいと思う。
 - ・3計画の中でどの様な形式でアンケート調査を行っていくのか、これから決めていくことになるが、本日、いただいた意見は、できるだけ反映させ、より良いものにしていきたい。

(2) 報告事項

- ・第50回関東甲信越静社会教育研究大会埼玉大会について
《議長より説明》

(3) その他

- ・各委員より社会教育に関する情報提供

4 事務連絡

- ・市民文化祭について
《事務局より説明》
- ・第3回社会教育委員会議の予定について
《事務局より説明》

5 閉 会

野村副議長からあいさつ